

芸術書ご担当 様 ★こちらの注文書でご注文いただきました書籍は、
ミュージック・ペンクラブ音楽賞 受賞帯にて出荷いたします。

速報！

「2024年度・第37回 ミュージック・ペンクラブ 音楽賞【クラシック】部門」受賞！

ミュージック・ペンクラブ音楽賞とは、一般社団法人 ミュージック・ペンクラブ・ジャパンが1993年に制定した、年間の音楽賞です。毎年、クラシック、ポピュラー、オーディオの各分野で最も優れた作品、アーティスト等が会員の投票によって選出され、4月始めに受賞式が行われています。

音楽評論の一五〇年 福地桜痴から吉田秀和まで



白石美雪 著

明治維新から150年余りの近現代史の中で 音楽評論家とメディアはどう育まれたか？ 音楽評論そのものの意味を問い直す！

気鋭の音楽学者である著者が「私はなぜ音楽評論を書くのか」という自身への問いを根源として、歴史的事象を読み解きながら音楽評論そのものを客観的に探究する。本書の起点となる1875年（明治8年）『東京日日新聞』の記事から、今日に至るまで約150年。音楽文化は、音楽評論によって多様な人々が輪を作りその車輪を動かし続けてきた。本書は、新聞の音楽評論、音楽雑誌、芸大楽理科、音楽之友社、遠山一行、吉田秀和ほか、音楽評論にとって重要で興味深い9つのテーマを時系列的に扱い、極力、評論自体を紹介しながら展開。インターネット社会の今だからこそ、あらためて日本の近代150年のスパンで音楽評論とは何かを問う渾身の一冊。

目次

- 第1章 「音楽がわからない」音楽評論家 —— 福地桜痴と『東京日日新聞』
- 第2章 学校音楽に期待をかける『音楽雑誌』—— 四竈訥治の時代
- 第3章 「一私人の一私言」を超える演奏評論 —— 一八九八年（明治三十一年）の『読売新聞』から
- 第4章 楽壇の画期としての同人雑誌 —— 『音楽と文学』とその周辺
- 第5章 音楽評論家の社会的認知と音楽著作権 —— 昭和初期の批評のすがた
- 第6章 「近代の超克」と大東亜共栄圏 —— 総力戦体制下の洋楽と音楽雑誌の統廃合
- 第7章 アカデミズムとジャーナリズム —— 東京帝国大学美学美術史学科から東京芸術大学楽理科開設へ
- 第8章 「健全な聴取者」というヒューマニズム —— 遠山一行の音楽評論
- 第9章 「音楽的自我」を生きる —— 吉田秀和の評論活動

プロフィール

白石 美雪(シライシ ミユキ)

音楽学者、音楽評論家。武蔵野美術大学教授。著作に『ジョン・ケージ 混沌ではなくアナーキー』（武蔵野美術大学出版局、第20回吉田秀和賞受賞）、『すべての音に祝福を』（アルテスパブリッシング）、編著書に『音楽論』（武蔵野美術大学出版局）、共著に『はじめての音楽史』（音楽之友社）、『武満徹音の河のゆくえ』（平凡社）、『キーワード150音楽通論』（アルテスパブリッシング）など。NHKラジオにレギュラー出演し、朝日新聞で音楽会評を執筆している。

ご担当 様 月 日

（貴店名・帳合）

（注文）

ミュージック・ペンクラブ音楽賞 受賞帯バージョン

音楽評論の一五〇年 福地桜痴から吉田秀和まで 白石美雪 著

冊

四六判・368頁

定価 3,850円（本体3,500円＋税10%）ISBN978-4-276-20116-3

→ ご注文: FAX 03-3235-2148

(株)音楽之友社／営業部 TEL 03-3235-2151